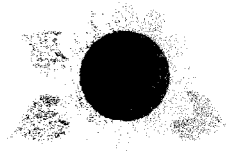


越谷市、就学相談の手引きの見直しへ

6月10日定例市議会において、教育長が答弁



越谷市の6月定例市議会において、越谷市民ネットから選出の清水泉議員、大田ちひろ議員から、越谷市における障害児の就学前や就学相談の流れについて一般質問が行われました。

清水議員からは、発達に課題のある子どもを受け入れる保育所等に対する支援策について質問がありましたが、こちらについては後日報告させていただきたいと思います。

大田議員から、まず「越谷市としてインクルーシブ教育の実現に向けた明確なビジョンを示していくべきではないか」という質問が出されました。



これに対して、野口久男教育長の答弁は、「共生社会実現に向けたインクルーシブ教育システムの構築、国、県が実現の重要性を示している。教委としても国、県の方針を受けその理念を広く周知し地域社会の中で誰もが目標をもって自己実現を果たすことができるよう教育的ニーズに的確にこたえる環境整備を行って

いく必要があるととらえている。そこで通常の学級、通級指導、支援学級、支援学校という連続性のある多様な学びの場において教育的ニーズに応じた必要な支援が行われるよう環境整備、共に学ぶ取り組み、日常的な交流および共同学習、支援籍学習の実施、これにより互いを尊重しあう心をはぐくんでいる。」というのですが…。

「共生社会に実現」は最初の方にしか出てこないで、むしろ目標をもって自己実現を果たせるようにという点に力点が移って、それぞれの教育的ニーズに応えるために必要な支援を多様な場で、という流れになっているような気がします。「多様な場」に分けられれば自己実現を果たしやすいのかもしれませんが、その小さなハコから出て「地域社会の中で誰もが」となったときに、その自己実現は揺らぎはしないのでしょうか？

大田議員からはその他にも、越谷市が使っている「就学相談の手引き」に「通級」、「特別支援学級」、「特別支援学校」の紹介のみで、通常の学級の紹介がないが、まず通常の学級で学ぶことも十分選択肢になることを記載すべきではないかという再質問もありました。

これに対し野口教育長からは、手引きの「はじめに」の部分で「共に学ぶことを追求するとともに、必要な指導・支援を受けられるよう、小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある「多様な学びの場」という文言が記載されていることを紹介しつつも、今後通常の学級も明記していくと答弁がありました。「多様な学びの場」という点が気になりますが、今後の見直しに注目したいと思います。(中山)



たのしみ夏

夏の相談会 in 久喜 の報告

日時:6月28日(土)10時半~12時半 久喜駅東口会場:久喜東コミュニティセンター

参加者:16名(相談者:近隣市町から6家族 先輩親およびスタッフ:5名 実習学生:1名)

東部地区での相談会を久しぶりに開催した。久喜は JR 線と東武線が通っており、集まり易い場所だ。相談者は久喜市内、羽生、川口、さいたま市からとさまざまで、以前 TOKO のミニおしゃべり会に参加したことのある方や知り合いから紹介されてという方もいた。相談内容は
大まかには、就学…2名、付き添いや医療的ケアについて…3名、中学進学への悩み…1名。
具体的には、「周りに迷惑かけてしまうので心配で付き添いしている」「身辺自立していないと普通級にいけないと聞いたが…」「導尿で(母が)3時間毎に学校へ行っている」「本人は今のまま普通級を希望しているが、学校からは支援級を勧められている」「本人のためにどうするのが1番いいのか…」など。令和になっても親の悩みは、昭和・平成の時と変わらない。そんな中、少し変化していることがある。今回参加された中に、特別支援学校に在籍していたが、4年生から地元の支援級に転籍したというお子さんがいた。越谷・春日部市教委との話し合いでも、ここ何年か前から“特別支援学校から支援級へ転籍”するケースが報告されている。以前はほとんどなかったことだ。もう一つ、付き添い問題と関係するが、医療的ケア児の学校でのケアとして最近では「訪問看護」の利用という考えが取りあげられているようだ。医療的ケア児の場合、特別支援学校でも親の付き添いをお願いされることがあり、その点からぜひ良い形で進んで欲しいと思う。当然だが、特別支援学校・支援学級のみならず全ての学校、幼稚園、保育所などで利用できる方向で。また今回もう少しお話を聞きたかったな…と思う方もいた。今後も皆さんと連絡をとって、また話し合いの場を設けたいと思っている。(藤ヶ谷)

<相談会に参加して ~感想~>

私は実習前から、障害児と健常児を分けて生活させるのではなく、ともに関わり合いながら生活していくことが大切だと考えていた。そのためには、インクルーシブ教育が必要だと思っていた。しかし、今回のようにいろいろな立場の人の話を聞く中で、それが全ての子供たちにとって常に良いとは限らず、個別の事情に配慮しながら柔軟に考える必要があることを学んだ。それでも、障害児と健常児が関わる機会を持つことは、お互いにとって重要であると思った。互いに違いを認め合い、自然な形でともに学ぶ環境を作ることが、これからの教育や社会づくりにおいて必要だと思った。(明治学院大学ソーシャルワーク実習 S)

これからの予定 (連絡・問い合わせ先 mogucchi_s@yahoo.co.jp)

TOKO ミニおしゃべり会 7月11日(金) 10:30~ ベシみ

春日部市教委との話し合い 7月24日(木) 11:00~ 教育センター

共に学ぶ教育の推進のための共同研究会

8月1日(金) 14:00~ 県庁知事公館1階会議室

越谷市教委との話し合い 8月7日(木) 13:30~ 増林公民館